

乳製品需給等情報交換会議（書面開催）における御意見

東宗谷農業協同組合

- 直近の北海道の生乳生産状況について、12月中旬までは良質な粗飼料やデントコーンの確保ができた事や、例年と比べ11月までの気温が高めで推移していた事もあり一頭当たり乳量も伸びた事から全道では高い伸びを示したが、12月に入ると一転して例年を下回る気温となった事や、年末年始における生乳の完全処理への懸念により全道的な生産抑制に取り組んだ効果もあり、12月下旬以降直近までは、それまでよりも伸び率が抑えられる事となっている。
- なお、年末年始においては、日本全国の消費者の皆様には牛乳乳製品の消費拡大に多大なるご協力をいただいた事、さらには乳業者や生産者の皆様、関係機関の皆様には様々な消費拡大に向けて取り組んでいただいたお陰で、処理不可能乳の発生は回避する事ができた。これは酪農乳業界だけでは困難な事であり、改めてご協力いただいた全ての皆様には感謝申し上げます。
- 一方、この先、年度末は季節的に乳量が伸びる時期と学校給食等の休止期間が重なる時期でもあり、年末年始以上に厳しい状況が予測されるため、我々としては引き続き生乳の完全処理に向けて生産抑制等の対策に取り組む。消費者の皆様には引き続き毎日の食生活の中に牛乳乳製品を少しでも取り入れていただきますようお願いする。
- 近年、それまで不足基調であった生乳需給改善のため、全国的に生産基盤の強化に取り組み、ようやくその成果が生乳増産という形で実を結び、国産牛乳乳製品の安定供給の道筋が見えた直後に、不幸にも新型コロナウイルス感染症が拡大し、牛乳乳製品需要は大きく減少する事になり、他の産業と同様に酪農乳業界も大きな打撃を受ける事となった。
- 酪農経営においては、飼料や燃料等の生産資材価格の高騰や、近年の牛舎等の建設費用高騰により償却費が増加するなど、生産費全体が大きく増嵩している一方で、牛乳乳製品需要確保に向けた販売対策の負担により手取り乳価は下落しており、酪農家の経営状況は急速に悪化している。
- これまで、国や乳業者、ユーザー、そして全国の消費者の皆様の協力も得ながら、生産者側でも大きな費用をかけて、脱脂粉乳をはじめとしたあらゆる国産牛乳乳製品の需要確保に取り組んできたが、それでもなお乳業者は非常に大きな乳製品在庫を抱えている。公表された令和4年度末の乳製品需給の見込みにおいても、脱脂粉乳は過去最高の在庫が見込まれており、バターについても近年では非常に高い在庫水準になると認識している。現在も含め、今後、生産側としては一定の生産抑制の取組が必要になるとともに、生産者、乳業者、国が一体となった脱脂粉乳の在庫解消対策に取り組む他、令和3年度に続き令和4年度についても、あらゆる需要確保対策に取り組む必要がある。
- 令和4年度の各乳製品の輸入数量について、国際約束上のカレント分の消化が求められる事は理解するものの、現在の国内の乳製品需給については、コロナの影響による需

要減により膨大な乳製品在庫を抱える状況にあり、酪農乳業界の最大の課題になっている。そうした状況を少しでも一刻も早く改善するため、令和2年度以降、生産者・乳業者・国等、関係機関が一体となって輸入との置き換えを進める等の国産乳製品需要の確保に取り組むとともに、消費者の皆様にも牛乳乳製品の消費拡大にご協力いただきながら、需給改善に取り組んでいるところであり、令和4年度もこうした厳しい環境は続くものと想定される。

- こうした乳製品需給の下において、生産者側としては、国による乳製品輸入がされる事による、国内の乳製品需給への影響を強く懸念しており、改めて、これまでの関係機関が一丸となって取り組んできた需給改善の取り組みを十分に踏まえるとともに、今後の脱脂粉乳並びにバター等、国産乳製品需要確保の取組の実効性が薄れる事がないよう、輸入数量や時期については最大限の配慮をお願いする。

ホクレン農業協同組合連合会

- 令和2年以降、国内の牛乳乳製品需要は新型コロナウイルス感染拡大による影響によって低迷が続いており、公表されたJミルクによる令和4年度末の需給見通しにおいても、脱脂粉乳在庫はこれまでにない水準に積み上がるとともに、バターについても過去20年で最高水準の在庫となる事が見込まれている。こうした状況の中、脱脂粉乳については令和4年度に生産者・乳業者・国が一体となって在庫低減に向けて取り組む事となっており、今後、酪農乳業界としては、こうしたスキームを活用しながら高位にある乳製品在庫の削減に向けて全力で取り組み、早急に生乳需給の安定化を図る必要がある。
- しかし、公表された令和4年度の需給見込みによると、需要の急速な回復が見込めない中では、上述の全国で一体となった脱脂粉乳の在庫削減対策に取り組んでもなお、脱脂粉乳は更に在庫を積み増す可能性が示唆されている。バターについても、国内供給と需要は拮抗しており、高位の在庫水準は解消されない厳しい見込みとなっている。
- 令和4年度の各乳製品の輸入数量について、国内における脱脂粉乳やバター等の乳製品在庫が極めて高位にある中で、今後の乳製品需給への影響が最小限に止められるよう、適切な運用をお願いする。特に、これまで生産者、乳業者が協力して取り組んできた国産乳製品の需要確保の取組は令和4年度も継続していく必要があり、こうした取組の効果が最大限乳製品需給に反映されるよう、輸入数量や時期については慎重な判断をお願いする。

一般社団法人中央酪農会議

- 生乳の生産現場においては、近年の生乳需給ひっ迫傾向を背景とした生乳生産基盤強化の取組成果が生産増として実を結びはじめた矢先、令和元年度末頃より新型コロナウイルス感染拡大による生乳需要の減少となり、生乳需給が緩和。こうした状況が約2年間続いており、先行きに光明を見いだせない状況にある。
- 令和3年度の年末年始には、処理不可能乳の発生が見込まれたが、乳業者と連携し、係る事態の回避に取り組み、また、国からの消費喚起の後押し、マスコミ各社での好意的な報道、国民の皆様方の温かいご厚情等により、何とか年末年始を乗り切ることがで

きた。しかし、今後、今年度末や次年度の年末年始等についても、自然体では同様の事態が生じることが見通されている。

- また、原材料や燃料の物価上昇が報道等に大きく取り沙汰され、社会問題化している中、酪農業においても飼料価格をはじめとした資材価格等が高騰し、経営を圧迫している状況にある。
- 生産者団体としては、こうした状況を背景に、乳業者と連携して需給改善に取り組んできており、令和4年度は、国の支援も頂きながら脱脂粉乳25千トンの在庫削減に取り組むなど、さらに一步踏み込んだ対策の実施も予定しているが、こうしたことに取り組んでも、なお令和4年度末乳製品在庫量が増加する見通しともなっている。
- こうした国内の生乳需給や酪農経営を鑑みた場合、乳製品の輸入は見送って頂きたいというのが、生産者団体としての正直な気持ちである。ただし、国際約束上一定の輸入枠の設定がやむを得ないとすれば、最低限の数量設定に留めて頂くとともに、極力、国内生乳需給に悪影響を与えない製品の輸入、さらに輸入・放出時期は、在庫削減対策の取組状況や乳製品需給動向を踏まえ、適時・適切に実施して頂くようお願いする。
- 生産者団体として今後とも生乳需給の改善に取り組んで行く予定であるが、引き続きのご指導・ご支援をいただきたい。

一般社団法人日本乳業協会

- 生乳生産は、新年に入ってから増産傾向が続いている一方、牛乳乳製品の需要については、新型コロナウイルスの影響が長期化する中、乳製品の一部で回復の兆しはあるものの、全体としては低調に推移しており、今後の動向も不透明となっている。
- この様な状況の中で、家庭用バターの需要は、昨年の巣ごもり需要の反動はあるが、依然として堅調に推移している。また、市場は落ち着いており、今後も欠品などの問題は無いと考えている。
- 業務用バターについては、製菓・製パン・洋菓子向けのポンドバターは好調に推移しており、需要は回復傾向にあるものの、外食・みやげ業界向けのバラバターはインバウンド需要が戻らないことから回復が遅れている。市場全体としては、コロナ禍が続く中で業務用バターの需要は厳しい状況が続くものと考えている。
- また、脱脂粉乳についても需要の動きは依然として鈍いことから、引き続き厳しい状況が続くものと考えている。
- これまで、行政による支援措置や生産者団体と連携した自主対策を講じているにもかかわらず、脱脂粉乳・バターともに在庫水準は過去最高水準に積み上がり、需要予測では生産量が更に増加する見通しである。
- こうした状況を放置すれば、乳製品処理の需給調整が破綻する恐れもあることから、国の支援も得て酪農乳業界として、脱脂粉乳の在庫削減対策に取組みを開始することとしたところであり、「バター・脱脂粉乳ともに輸入する必要はない」と考えている。
- よって、国家貿易による乳製品の輸入・売渡については、国内の需要を踏まえて適切な運用をお願いする。

一般社団法人Jミルク

- 年末年始に処理不可能乳の発生が懸念されたが、酪農乳業にたずさわる関係者の皆様のご協力、また、消費拡大に向けて温かい多くの応援をいただいた小売・流通関係者様、牛乳乳製品需要者様、そして消費者の皆様のお力が要因となり、処理不可能乳の発生を回避することができた。深く感謝申し上げます。
- コロナ禍が2年を経過する中、依然として業務用を中心とした牛乳乳製品需要の減少が続き、その影響もあり乳製品在庫は大きく積み上がり、特に脱脂粉乳の在庫は過去最高水準となっている。
- こうした状況を放置すれば、乳製品処理による需給調整が破綻し、飲用市場を含めた生乳流通全体が混乱する恐れがあることから、国の参画を得た業界関係者による意見交換の結果、酪農乳業界として脱脂粉乳の在庫削減対策に取り組むことを決定し、国の支援も措置されたところであり、今後は本対策の実行に向けて取り組んでいく。
- しかしながら、今後の新型コロナウイルスによる影響は依然として不透明であり、次年度も需給ギャップは拡大する可能性が高いことから、業界としては、輸出も含めた新規需要創出等、継続的な需要拡大に最大限取り組むことが必要であるとともに、国家貿易の輸入・売渡については、乳製品の需給動向や自由貿易協定の動向を考慮した上で、適切な運用を期待する。

卸売業者

【業務用】

- Goto トラベルのプラス要因があった令和2年度と比較しても、令和3年の年末はより人の動きも回復傾向となり全般的な荷動きは良かった。
- 原材料のありとあらゆる商品が値上げされる中、数少ないコスト削減を依頼できる商材として原料乳製品への要望が多い状況である。
- バターについては、百貨店・お土産・洋菓子・和菓子・パン関係等でバラバター・シートバター・プリントバターなどの販売数量は伸びた形（回復）にはなっているものの、令和元年度比で見るとまだまだ業務用は厳しい状況であり、特にインバウンドは消失したままである。一方で、バターリッチな商品は増えている傾向である。
- 脱脂粉乳については、状況としてはあまり変化はなく、大きな需要も見込めない。各メーカーの需給に応じた価格対策によりユーザーの購入状況の変化が見られる。

【家庭用】

- 家庭用バターは、売場におけるバター欠品は完全に解消されており、供給は順調であると認識している。
- 安定供給を目的とした主要バターの割当納品も、8月に一部商品を残し解除した結果、12月は納品率（※）97%（前年比+8.6ポイント）と大幅に改善した。22年1月からは全商品割当解除となることから、納品率は更に改善されると考えている。

- 〔（※）「納品率」 ＝ 「小売店への納品数量」 ÷ 「小売店からの発注数量」 〕
- 一方、懸念された売上高実績においても、割当解除前実績（４－７月）は前年同期比 88%台から割当解除後実績（８－１２月）は前年同期比 98%台とV字回復となった。商品供給が潤沢であることと、一部メーカー様の上期から続くバター在庫過多対策として販促対応されてきたことが売上回復要因と考えている。
 - バター供給が安定しているとはいえ、引き続きバター動向には最大限留意しながら、需給調整の一翼を担うべく尽力していく。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- スーパーマーケットでのバター等の欠品は報告されていない。
- 乳製品全般の昨年 12 月の販売実績は前年同月比 98%、令和元年比 102.2%であり、前年に比べ内食需要に落ち着きが見られ全般的に伸び悩んだ。
- バターは、前年の反動減が見られた。

一般社団法人全国消費者団体連合会

- 昨年末に多様なメディアを介して発信された、農林水産省の「NEW（乳）プラスワンプロジェクト」の取組は、岸田総理自らの呼びかけの効果もあり、消費者に向けたタイムリーな情報発信となった。これは、乳製品の需給に関する消費者への課題の提供にもなり、スーパーやコンビニで、年末年始に牛乳の購入を促進するさまざまなキャンペーンが実施されたことは、消費行動を促すきっかけにもなった。
- このような、需給改善に向けた社会全体の後押しの仕組みが「見える化」することは、業界にとっても消費者にとっても望ましいことと考える。
- 新型コロナウイルスの影響が長引く中、外食など業務用の牛乳乳製品の需要の回復が深刻化していることや、今後も需給の見通しが厳しい状況である予測については理解した。コロナがもたらした需給バランスの変動によって、生産者の負担がより重くなっている状況の中、バターや牛乳等の安定供給が保たれていることに対して、酪農乳業界の尽力に感謝している。
- 報告にある通り、生乳生産が全国的に好調に推移していることは有難いことであり、その生産の恵みが無駄にならないよう、消費者を含めた社会全体の支援が今後も必要と考える。その点からも、この年末年始に実現された社会的な応援体制の機運が、今後も継続されることを望む。

一般社団法人日本パン工業会

- パン業界においては、バター、脱脂粉乳の需要は安定的に推移しており、調達には特段の支障はない状況にある。国産バター等については、在庫が潤沢であること等から、調達・使用割合が増えており、調製品からの国産バターへのシフトも進んでいる。
- 今後も、国産バター等について継続して安定的な供給をお願いしたい。なお、国産脱脂粉乳の在庫が増えてきており、これが続くと、国産バター等の供給にも影響が及び得

ると考えられることから、適切な対策が講じられるようお願いする。

協同組合全日本洋菓子工業会

- バターの調達については、年末の需要期も含め特段の問題は発生しておらず、安定供給が続いている。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況は依然先行き不透明であるが、今後鎮静化とともに贈答品、焼き菓子等の消費回復に伴う生産増加も見込まれるところ、引き続きバターの安定的な供給をお願いする。また、現在あらゆる製菓原材料が値上がりしている中、安定した価格の維持もお願いする。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- 昨年はコロナ禍で迎えた2度目のクリスマスであったが、バターをはじめとする乳製品不足は見られず、供給は安定していた。また、年明けのバレンタイン・デー、ホワイト・デーを控えた現在においても、その傾向は続いている。
- このところの原材料価格の軒並みの高騰で、洋菓子業界は菓子の価格見直しを迫られる事態になっているが、主要原材料である乳製品の価格は、製品の値段に大きな影響を及ぼすので、特に今後の価格の動向を注視していきたい。

全国菓子工業組合連合会

- 菓子業界では、家庭内の堅調な需要がある一方、引き続き、土産菓子や贈答用を中心に販売額の回復が遅れている。
- 乳製品の供給については、当面、量的な不安はないものの、価格の高止まりが経営を圧迫しているため、今後の輸入枠の検討に当たっては、低廉な乳製品の供給が円滑に行われるよう配慮をお願いする。

(以上)